

明日へ向けてのアピール (31)

今こそ、手話言語環境の整備と魅力あるろう学校の発信を

令和になって初めての集会を、上毛三山などの山々の豊かな自然、多くの温泉に恵まれたここ群馬県高崎市において開催することができました。全国から集まった 330 名の参加者が、「私たちがめざす手話言語法とろう教育の充実」をテーマに、猛暑の中、熱く学習や討論を行いました。

パネルディスカッションでは、「手話言語の獲得環境を整えるために」のテーマで討論が行われました。それぞれの立場から貴重な提言をいただきましたが、特に、子どもが聞こえないとわかったときどうしたらよいか、という依然として残された重要な課題が提示されました。これは、現在の国の動きとも関係して早急に対応が必要なことだと考えます。

分科会の「子どもたちが手話言語と日本語を自由に使えるためには」では、レポートを元に教育における情報保障制度化の課題と子どもたちの生きる力を育む課題が話されました。「乳幼児・保護者への早期支援」では、地元の聾学校から学部を越えて多くの参加者があり、早期支援の重要性についての認識の深まりが感じられました。「放課後等デイサービスとろう学校・地域とのつながり」では、放課後デイでの子どもたちの成長の様子やそれを支える支援のあり方について、報告・討議がなされました。「手話言語条例による共生社会をめざして」では、医療・保健・福祉・教育の連携の大切さと、それぞれの地域における特性を活かした取り組みについて話がなされました。「特別講座：絵本手話語りを学ぼう」では、ワークショップも交えながら絵本を通してコミュニケーションを楽しむことを体験しました。今回は、「小・中・高校生企画」に加えて初めて「ろう重複なかまの集い」が開催され、それぞれ企画を通して楽しく交流を深めました。

群馬県は、手話言語条例が制定された三番目の県であり、条例では特に教育について吟味された内容が盛り込まれています。その意気込みが群馬のろう教育をより良く変えてきたことを学ぶことができました。集会へは教育委員会や聾学校、健康福祉部の関係者の方も直接討論に参加をされ、熱心に研修をされていたことが大変印象的でした。

また、全国的にろう学校の少人数化が進むなかで、群馬県立聾学校では乳幼児教育相談の数が増えてきていること、幼稚部の人数が多いこと等、医療機関をはじめとする関係機関との信頼関係作りや手話言語を取り入れたことによる教育の充実など学ぶべきことが多くありました。

今、国では、聞こえない・聞こえにくい子に対する早期支援についての検討が急速に進められています。ともすれば当事者や支援者の想いを顧みず、偏った方向に進みかねない危惧もある中、私たちの役割や責任は大きなものがあると思います。聞こえない・聞こえにくい子どもを持つ保護者が安心して相談できる医療・保健・福祉・教育の連携したシステム化を加速的に検討していかなければなりません。ここ群馬で語り、学び合った私たちが、それぞれの地域や学校において、当事者を中心としたさまざまな関係者、仲間とともに語り合い、繋がり、そして私たちの想いを発揮していきましょう。

次回開催は 2 年後になります。良い報告を持ち寄り、四国で初めて開催されるうどん県・香川での討論集会にて、またお会いしましょう。

2019 年 8 月 4 日

第 31 回ろう教育を考える全国討論集会 in ぐんま 参加者一同